

神奈川県内トラック運送業界の景況感調査 速報

(平成29年7月～9月期)

今回調査は、平成29年7～9月期実績と平成29年10～12月期見通しを平成29年10月上中旬に調査したものであり、配付した2,141社のうち550社から回答を得た結果である。

■概況

我が国経済は、29年4～6月期の実質GDP成長率(季調ベース)が、前期比0.6%増(年率2.5%増)と6四半期連続のプラス成長となった。個人消費や公共投資など内需が成長をけん引しており、経済成長率は引き続き堅調な伸びを示している。

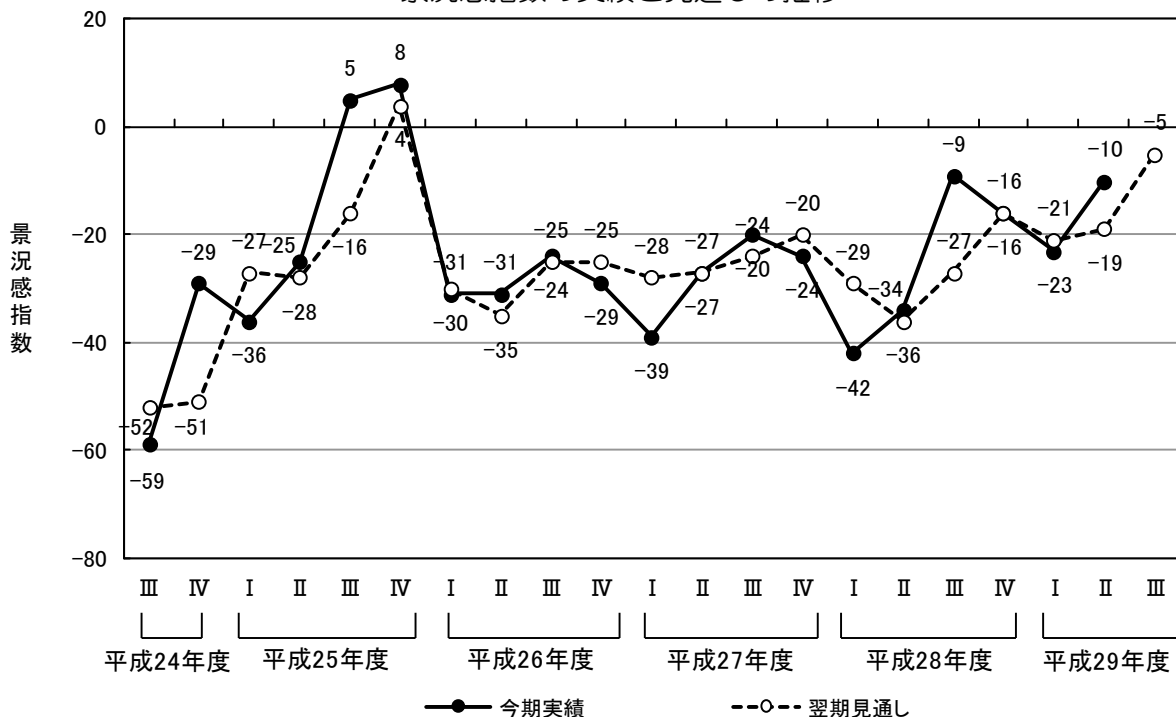
このような状況の中、平成29年7～9月期の物流を取り巻く経営環境は、輸送数量や営業収入において改善がみられ、トラック運送業界の景況感は、前期と比較しマイナス幅が縮小傾向にある。

輸送数量指数は、前期に比べ大規模事業者で大幅な回復基調にある一方(+21)、全体では±0、中規模事業者△2、小規模事業者△1となっている。翌期も大規模事業者におけるプラス基調は継続の見通しであり、全体では+1とプラスに転じる見通しとなっている。

品別別に今期実績の輸送数量指数をみると、消費関連貨物は△3、生産関連貨物は△7、建設関連貨物は△3、輸出入関連貨物は△12と前期に比べ概ね改善傾向にあり、翌期は消費関連貨物と建設関連貨物がプラスに転じるなど、全体的に改善基調の見通しとなっている。

このような状況のもと、トラック運送業界の景況感は△10と前期指数△23より回復したものの依然としてマイナスであり、翌期見通しも△5とマイナス基調が続く見通しとなっている。翌期の見通しを業種別にみると、重量鉄鋼、生コンで増加基調となっている一方、特積みおよびタンク・高圧ガスで減少幅が大きい見通しとなっている。

景況感指数の実績と見通しの推移



注1) 太い実線は今期実績の景況感指数(前年同期比)、点線は今期時点の翌期見通しの景況感指数(前年同期比)。

■景況感調査結果一覧

		前 期	今 期	翌 期	
		29年4~6月	29年7~9月	29年10~12月	
景況感（全体）		△23 ↘	△10 →	△5 →	
輸送数量（全体）		△14 →	±0 →	+1 →	
規模別	大規模事業者	±0 →	+21 ↗	+36 ↗	
	中規模事業者	△3 →	△2 →	△1 →	
	小規模事業者	△23 ↘	△1 →	±0 →	
	品類別	消費関連貨物	△9 →	△3 →	+1 →
		生産関連貨物	△25 ↘	△7 →	△4 →
		建設関連貨物	△24 ↘	△3 →	+1 →
		輸出入関連貨物	△22 ↘	△12 →	△3 →
経営状況	営業収入（売上高）	△14 →	△2 →	△3 →	
	営業利益	△33 ↘	△17 →	△15 →	
	運賃・料金の水準	△6 →	△1 →	+2 →	
労働	雇用状況（人手の過不足）	+67 ↑	+64 ↑	+60 ↑	

【参考】業種別景況感

景況感（全体）		△23 ↘	△10 →	△5 →
業種別	一般	△26 ↘	△9 →	△7 →
	特積み	±0 →	△100 ↓	△75 ↓
	自動車部品	△13 →	+9 →	△6 →
	食品	△6 →	△8 →	+5 →
	タンク、高圧ガス	△10 →	±0 →	△31 ↘
	引越	△12 →	△27 ↘	△6 →
	重量鉄鋼	△14 →	△4 →	+33 ↗
	生コン	△17 →	+10 →	+22 ↗
	海上コンテナ	+8 →	±0 →	+2 →

注2) 名設問選択肢に次のような5段階のポイントを付与したうえで、各選択肢のポイントを集計し、1事業者当たりの平均値を業界の景況感を判断する指数としている。したがって、この指数値が0のときに業界の景況感等は前年度並みの状況を示し、プラス値が大きいほど業界の景気等は上向いていること、逆にマイナス値が大きいほど悪化していることを示すものとなる。

なお、この値はあくまで指数でありパーセンテージではない。例えば前期の実績に対し、更に何%上昇あるいは悪化という見方ではないことに留意が必要である。

注3) 判断指数と矢印の対応

判断指数	~ △100 ~	△60 ~	△20 ~	+20 ~	+60 ~	+100 ~
矢 印	↓	↓	↘	→	↗	↑